



777号
〒144-0052 東京都大田区蒲田 5-10-2 日港福会館 5階
Tel 03(3733)5621 Fax 03(3733)5622
メール roren@kensu.jp
ホームページ http://www.kensu.jp/
全国検数労働組合連合書記局



第56回 定期全国大会

知識に裏打ちされた日常活動の実践力で未来を創ろう

9月12日(木)～13日(金) シーパレス豊橋にて、第56回全国検数労連定期全国大会が開催されました。

今定期大会には来賓として全労連・清岡副議長、交連共闘・高城議長、全国港湾・遠藤副委員長が来賓としてお祝いとお励みのあいさつに駆けつけてくれました。また、48労組、2団体からメッセージをいただいたことを厚く御礼申し上げます。

今定期大会は代議員24名、中執5名、会計監査2名、オブ24名の合計55名の参加で構成され、活発な意見が交わされる中で全体の確認を経て、23年度経過の総括と24年度運動方針が確立されました。

【23年度経過と総括】

ロシアのウクライナ侵攻、中東紛争などによる原油や天然ガスの高騰。円安による諸物価の高騰を受け、我々の生活は悪化の一途を辿っているなかで、中央・地域・職場が一体となって23年度運動方針に則って全国団結で運動を進めてきた結果、冬季・夏季一時金では昨年比を上回る回答を勝ち取ることができました。一方、24春闘では大企業を中心に満額回答が提示されるなど、世間的にも賃上げムードが漂う中で港湾産別でも船内・沿岸関係労組では5桁回答が提示されました。

検数労連も船内・沿岸関係労組に続けと5桁回答を目指し交渉を進めてきましたが、結果と



して昨年を上回る回答を勝ち取ったものの5桁回答には届かないなかでの妥結となりました。

この経過を踏まえ各地域からは、一時金については総額では上がったもののアルファ回答への比重が大きい点、乗率重視の考えを基に要求算式の見直しを求める意見が出されました。

春闘関係では、過去最高額の回答であったが、有額回答の遅れや世間相場との関係では低額であり不満が残る回答であったとの意見が出されました。

各地域から出された意見を踏まえ、今後、要求や賃金のあり方などを議論する『検討委員会』の設置に向けた内部議論をしていくこととして纏めました。

春闘についても地域からの意見を受け止め、両協会には主体性を持った回答を求めていくと同時に、引き続き中央・地域・職場の連携で大幅賃上げを目指していくとしました。

【24年度運動方針】

検数労連の方針である『仕事と収入の確保運動』を通じて『つながりを大切にする日常活動の実践強化』『守るべき基本と情勢の変化に即応するための体制づくり』を重視し、運動を前進させていくことを確認しました。

具体的な取り組みとしては、中央・地域・職場が連携しながら『雇用と職域の維持』『安定した生活の維持、向上にむけた経済要求の前進』『日常生活の活性化と次世代育成の前進』『組合未加入者の組織化の前進』『職場を基礎にしたたたかいの前進』『暮らしと雇用、平和を守る運動の前進』の6点を運動の中心と捉え、運動の前進を図っていくとしました。

【石橋委員長総括答弁】

延べ16名から賃金課題を中心に意見が出された。特に賃金のあり方や要求方式なども『検討



委員会』の中で議論していくが、賃金課題は単年度で実行できるものではなく、時間を掛け、タイミングを見ながら議論展開していく。

価格転嫁の取り組みについては、日港協と国交省が連名で発表した『おねがい文』を活用して料金収受に向けた対応に努力するよう両協会に求めていく。

組織強化では各地域で世代交代が図られていることから、中央としては積極的にオルグを開催していく。過去に開催したオルグでは、現地の組合員が問題意識を持ちながら意見交換してきた経過を踏まえ、こうした取り組みを大事にしなが、引き続き全国オルグを展開していく。

様々な問題が山積しているが、中央・地域・職場の連携による全国団結で対応していくことを訴えて、総括答弁とする。

【2024年度中央役員体制】

中央執行委員長	石橋 覚	(再任)
中央副執行委員長	山田 拓	(再任)
同	高木 正一	(再任)
中央書記長	光部 泰弘	(再任)
中央書記次長	石渡 周二	(再任)
中央会計監査	川瀬 達也	(新任)
同	中村 泰造	(新任)